

主催者あいさつ

奈良文化財研究所長 本中 眞

皆さん、こんにちは。

今日は雨が降るという予報でしたが、やや蒸し暑いものの、晴れたようです。そんな天候の中、この会場にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。奈文研所長の^{もとなか まこと}本中眞でございます。よろしくお願いいたします。

ただいま、ご紹介がありましたように、本年、奈良文化財研究所（以下、奈文研^{なぶんけん}と略称）は、昭和 27 年（1952）に文化財を専門とする国立の研究機関として奈良の地に設立されてから

70 周年を迎えます。同時に、奈文研が長らく調査研究のフィールドとしてまいりました平城宮跡は、史跡に指定されてから 100 年を迎えるわけです。このような節目の年に、奈文研はこれまでに蓄積してきた平城宮跡をはじめとする調査研究の到達点について再確認するとともに、課題と未来への展望を所員全員で共有しつつ、次のステージへと進んでいきたいと考えているところであります。

本日の講演会の開会にあたりまして、まず申し上げておかなければならないことですが、奈文研では、昨年度以来、調査研究報告書の刊行遅延に係るコンプライアンス違反の問題や所員によるセクシャルハラスメントの問題など、様々な不祥事が発生しまして、皆様方には多大なるご心配とご懸念を抱かせてしまったと深く反省しております。

このたびのシンポジウムの開催に当たり、このことについて、改めておわびを申し上げますとともに、不祥事への厳正なる対応と確実な再発の防止対策を講じたということをご報告申し上げておきたいと思います。また、防止対策につきましては、今後とも鋭意継続してまいります所存でございます。

本日のシンポジウムは、これらの不祥事がある意味、乗り越えて、史跡指定「満 100 歳」を迎えた平城宮跡とともに、その保存と活用に大きく関わってきた奈文研が、今後進むべき次のステージを展望する上で大きな転換点をもたらすものであると信じております。

さて、本日は、長年、奈文研の調査研究活動を温かく見守り、時に厳しく叱咤^{しったげきれい}激励して下さっ



た有識者の方々、そして、ご支援・ご協力をいただいている行政機関の皆さまにご登壇をいただき、平城宮跡が担ってきた役割と、その将来、今後の奈文研の関わり方などについてお話をお伺いしようと考えております。

まず、東京大学名誉教授の佐藤信先生に「平城宮跡の調査研究・公開活用と奈良文化財研究所」と題しまして基調講演をいただきます。佐藤先生は、日本古代史を専門とする研究者で、奈文研では南都諸大寺に伝わる古文書や平城宮跡出土の木簡に関する調査研究に従事された奈文研OBでもいらっしゃいます。

佐藤先生のご講演の後、当研究所所属の3名の研究員が平城宮跡の保存の観点から、「平城宮跡の史跡指定」の経緯についてご紹介し、これまで平城宮跡において実施してきた「奈文研による発掘調査」、そしてそれを踏まえた「平城宮跡の活用と未来」と題して、それぞれ情報提供を行います。

以上を踏まえ、文化庁、国土交通省、そしてマスコミの方々にもご登壇いただき、「平城宮跡の過去・現在・未来」と題してパネルディスカッションを行いたいと思います。それぞれの専門分野に軸足を置きながら、これまで蓄積してきた奈文研の調査研究の特質と成果を振り返り、将来にわたって奈文研と平城宮跡が担うべき役割について語っていただこうと思います。

現在、奈文研では、平城宮跡のみならず飛鳥・藤原宮跡を含め、都城遺跡の発掘調査および整備など奈文研が関わってきた多方面にわたる調査研究活動の到達点、課題について明らかにし、今後、奈文研がどのような方向に進んでいくべきなのかについて、所員全員で議論を行っているところです。その過程では、自らに与えられた社会的使命である「ミッション (Mission)」を再確認した上で課題を整理し、将来的な展望としての「ヴィジョン (Vision)」を描き出し、その実現の手法である「ストラテジー (Strategy)」を明確化しようと考えているところであります。そして、その成果を奈文研 70 周年記念誌上において公表することとしています。

今回のシンポジウムの成果も、そのような奈文研のミッション (Mission)、ヴィジョン (Vision)、ストラテジー (Strategy) に必ず反映すべきものであると考えているところです。

どうか、今後とも私たちの調査研究活動に皆様方の忌憚^{きたん}のないご意見をお寄せいただきますとともに、平城宮跡と奈文研への変わらぬご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げまして、開会にあたっての、わたくしのご挨拶といたします。